

(肝属郡串良町岡崎字浮石塚・小塚他)

位置と環境

遺跡は町の中心部から南へ約600mの標高30mの舌状台地上にあり、東側を串良川、西側を甫木川が流れている。古墳は台地の東側縁辺部に集中して分布しており、円墳18基（大正時代には30基以上を数える）、地下式横穴墓数基が知られている。

調査の経緯

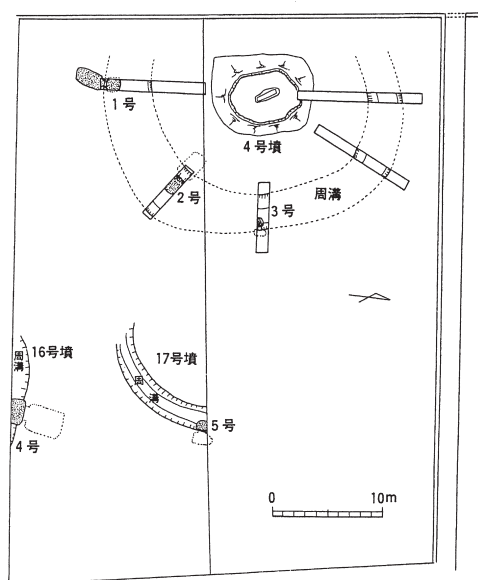
地下式横穴墓の調査は、大正5年に瀬之口伝九郎により報告されているが、その後は調査例はなかった。

昭和60年以降になると古墳所在の確認のため串良町教育委員会による確認調査が実施された。

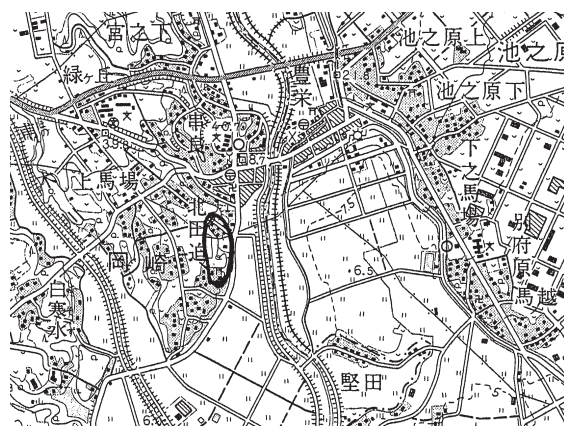
昭和60年5月には4号墳（円墳）、昭和63年には4号墳のある畑の東側で、平成9年には15号墳での確認調査が実施された。これまで、発掘調査例があまりなく内容が知られていなかった大隅半島の古墳であったが、岡崎古墳群の調査によってその一端が明らかになった。

4号墳（第2図・第3図）

4号墳は、円墳で墳丘周辺部が削除されているため、現状では6m×5mの楕円形の形状で、昭和60



第2図 4号・16号・17号
円墳（4・16・17）及び地下式横穴墓（1～5号）



第1図 岡崎古墳群の位置

年に土地利用のため確認調査を実施した。

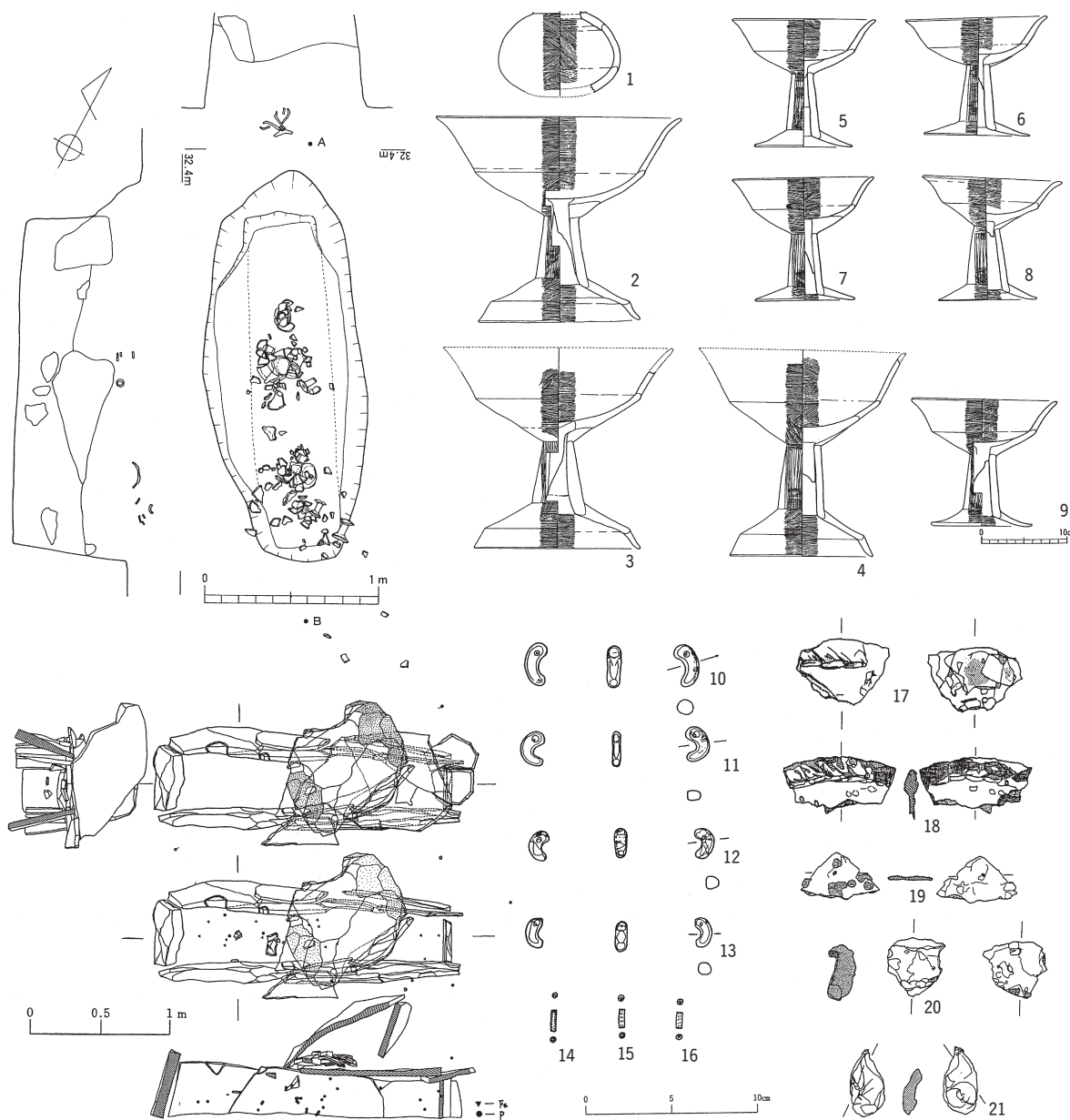
その結果、墳丘が22mで幅4mの周溝を巡らすことが判明した。また、墳丘の中央部に埋葬主体と思われる土壌があり、その直上に土師器の高坏（第3図2～9）11点と壺（第3図1）1点が供献されている。土師器から見て5世紀前半の古墳と考えられる。さらに、周溝確認のトレンチ調査では、周溝が埋まりきる直前に竪穴部を掘り込んで造られた地下式横穴墓が発見されている。

10～14号墳

10～14号墳は、いずれも小円墳で、昭和61年に測量調査のみ実施されている。その結果、10号墳は径6.7m、高さ0.8m。11号墳は径6m、高さ1.4m、12号墳は径7m高さ1m。13号墳は径5.5m、高さ0.9m。14号墳は径5.4m、高さ1.6mである。いずれも内部の調査は行なわれていないため詳細は不明である。

15号墳（第3図）

15号墳は、現状で径5m、高さ1.2mで、中央部に組合式箱式石棺が露出していたため、確認調査を実施した。その結果、径8.5の円墳であるが、墳丘の盛土がかなり流出していることが判明した。主体部の箱式石棺は、蓋石の一部が盗掘のためか動いているが、側壁は原位置を留めている。その規模は内法で長さ198cm、幅41cm、蓋石から床までの深さ30cmである。石材は国見山系の基盤層である花崗岩を板石として利用している。副葬品は小円墳にしては豊富で、翡翠製勾玉4（第3図10～13）、壁玉製管玉3（14～16）、鉄製工具片1、甲冑片多数（短



第3図 4号墳・15号墳主体部及び出土遺物

甲・冑) (第3図17～21) 等がある。短甲は長方板革綴短甲と呼ばれる九州でも5例目と希少で貴重なものである。5世紀代の古墳であろう。

1号地下式横穴墓 (第4図)

4号墳の周溝部分に竪穴を掘り、墳丘とは反対側に玄室を掘り進めた地下式横穴墓である。周溝が埋まりきる直前に竪穴を掘っていることから、4号墳より新しいことは明確である。

玄室は長方形の家形で、中には軽石屑を敷いて屍床としている。副葬品は鉄剣2 (第4図1・2)・刀

子1 (第4図3) 鉄鏃8 (第4図4～11)・鉈1 (第4図14)・ノミ状鉄器1 (第4図12)・不明鉄器 (切出状) 1 (第4図13)・砥石1 (第4図15) と豊富である。玄室の入り口は板と粘土で閉塞していたと思われる。また、その粘土の上に入り口を封印するかのように赤色の丹玉 (第4図16) が置いてある。人骨の残りも良く成人男性と判明している。古いタイプの地下式横穴墓で5世紀後半と思われる。

2～5号地下式横穴墓 (第2図)

2・3号墳は、4号墳の周溝を切って造られてお

り、玄室の方向は2号墳が円墳の中心部、3号墳が円墳の外側へ向いている。4号・5号墳は削平されて周溝だけ確認された古墳の周溝部分を切って造られたものである。4号墳は16号墳、5号墳は17号墳の墳丘の外側へ玄室が向っているものである。4号墳では竪穴部の上部に土師器の甕・坏・埴（第4図17・18・19）が供献されており、5号墳では周溝内の竪穴部近くに土師器の坏・埴・高坏（第4図20・21・22）が供献されている。玄室内の調査が行われていないため詳細はあきらかでないが、4号・5号墳については土師器からみると6世紀前半代と想定される。

岡崎古墳群では高塚墳の周溝の窪みが残っている段階で地下式横穴墓を造り、なおかつ竪穴部を周溝の窪みに合わせて埋め戻している状況が認められる。このことは、高塚墳の存在を十分に認識した上で地下式横穴墓を造っていることにほかならない。これ

までの高塚墳と地下式横穴墓との関係についてはいろいろ研究されているが、このように密接な関係にあったことは新しい知見であり、今後の研究に役立つものと思われる。

資料の所在

出土遺物は、串良町教育委員会に保管されている。

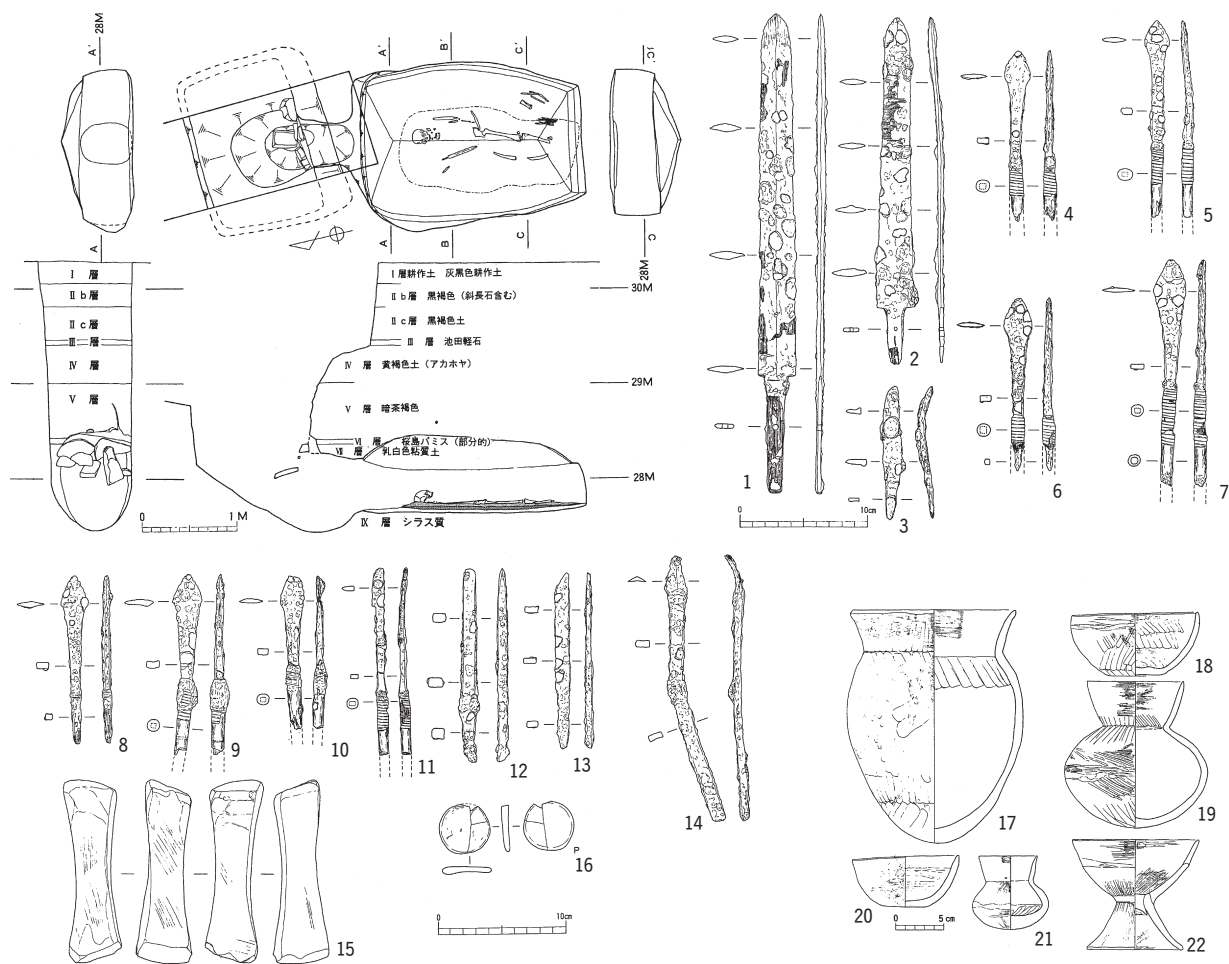
参考文献

串良町教育委員会1986「岡崎4号墳・1号地下式横穴」『串良町埋蔵文化財発掘調査報告書』1

串良町教育委員会1990「岡崎古墳群」『串良町埋蔵文化財発掘調査報告書』3

串良町教育委員会1999「上小牧遺跡・岡崎15号墳」『串良町埋蔵文化財発掘調査報告書』8

（中村耕治）



第4図 1号地下式横穴墓・副葬品及び2・3号地下式横穴墓供献土器